

宮崎県農協青年組織協議会 ポリシーブック 2014

～若手農業者における政策提言～



平成26年10月制定

宮崎県農協青年組織協議会 ポリシーブック 2014

目次

I JA 宮崎県農青協の概要

II ポリシーブック作成の目的

III 課題の概要と解決策の取り組み

1. 農業所得向上について
2. 青年部活動・組織の活性化について
3. 地域農業を守り、育てる取り組みについて
4. 地域・消費者への理解、教育活動と魅力発信について

I J A宮崎県農青協の概要

宮崎県農協青年組織協議会（略称：J A宮崎県農青協）は、県内13のJ A青年部を会員とし、会員相互の連絡提携をはかり、県内J A青年組織の活動を促進し、もって農業協同組合運動の推進を図ることを目的に昭和33年（1958年）に設立された組織です。

おおむね20歳から45歳までの、日本の農業を担う青年層が中心となっており、県内で約1,800人の構成員（盟友）がいます。

農業の厳しさとすばらしさを一番知っている者として、新しい時代の農業経営を確立し、農業を基盤とする地域づくりを実践するとともに、次世代および消費者に向けて、農業や食料の大切さ、安全で安心な国産農畜産物の重要性を訴えるため、全盟友の認識を高め、新時代の礎となる確固たる青年部組織の樹立をめざして活動を行っています。

II ポリシーブック作成の目的

農業を取り巻く情勢が大きく変化している中で、将来の日本農業を担うJ A青年部盟友は自分たちの目指す日本農業のあり方を組織内外に示していくことが重要であると考えております。

ポリシーブックは「自分たちの行動目標」と「積み上げによる政策提案」を具体化した方針・政策集であり、J A青年部盟友一人ひとりが営農や地域活動をしていく上で抱えている課題や疑問点について、自ら取り組むべき方針と要請項目を明記することで、消費者等も含めた幅広い関係者に要請項目への理解を求め、行政や関係機関等に対して青年部としての主張を訴えていきます。また、ポリシーブック作成や意見交換の過程の中で、組織強化や活性化につなげていきます。

Ⅲ 課題の概要と解決策の提案

1. 農業所得向上について

(1) 現状と課題

- ・消費や価格の低迷、資材の高騰による農業経営の圧迫
- ・気象条件、生産価格の変動によるリスク
- ・農業政策への不安

(2) 目指すべき姿

- ・持続的な農業が行える生産構造の確立

(3) 課題解決への取り組み

【県農青協】

- ・消費者へのPR活動

【JA 青年部】

- ・青年部で一つの品目栽培に取り組み、栽培から販売までの産地づくりを目指す
- ・現地視察や研修会の企画
- ・独自販売ルートによるブランド化
- ・経営セミナー等を開催し、経営状況の把握と分析を行う

【盟友個人】

- ・青年部活動を通じた情報交換
- ・土壌診断に基づいた適正施肥
- ・品質、生産技術の向上
- ・機械の共同購入による生産コストの削減
- ・規模拡大に向けて積極的に取り組む

(4) 要望

【JA・行政】

- ・新品目に取り組むにあたっての経済的支援、助成
- ・栽培技術にかかる勉強会等の実施
- ・地域の特性に応じた補助事業採択枠の拡大
- ・営農、経営指導を継続的に行えるスペシャリストの育成・確保と予算措置
- ・地産地消運動の拡充、食の安全に対する検査の強化、情報開示
- ・契約栽培による収入安定
- ・規格外品の販売努力
- ・規模拡大が困難な地区（農家密集地区）に対する対策、改善

2. 青年部活動・組織の活性化について

(1) 現状と課題

- ・ 盟友数の減少と活動参加への意欲の停滞
- ・ 若い世代の盟友の未加入、予算の不足
- ・ 活動のマンネリ化、活動の魅力が伝わっていない
- ・ 盟友まで情報が伝わっていない、青年部活動のメリットが見えない

(2) 目指すべき姿

- ・ 組織としての信頼関係の構築と地域農業の活性化を目指す
- ・ J A 青年組織の再編と活動見直しにより、「青年部活動の重要性と魅力発信による仲間づくり」を展開する

(3) 課題解決への取り組み

【県農青協】

- ・ 盟友の意識が高まるような活動の企画と運営
- ・ 県農青協委員のリーダーシップの発揮

【JA 青年部】

- ・ 盟友同士の研修、交流の場を設け、盟友の意見が反映される組織作り
- ・ 地区単位での行事の実施、支部間での情報交換を図る
- ・ J A 事業運営に積極的に参画し、積極的に農政活動を展開していく
- ・ 異業種・団体との交流、合同活動の実施、優良活動事例の共有
- ・ 未加入者とのコミュニケーションをとれる場、体験型の機会の設定
- ・ 青年部活動を末端盟友にも広く知ってもらえるように、Facebook などを活用し情報発信を積極的に行っていく
- ・ アンケートの実施などで、事業後の反省を行う

【盟友個人】

- ・ 活動に対して役員任せではなく、それぞれの考えていることややりたいことを積極的に提案し青年部活動に参加する
- ・ 未加入者の情報収集と個人的アプローチ、青年部盟友の正組合員化
- ・ 生産力、収益を上げ、経営状況を安定させ、活動しやすい環境作りを行う

(4) 要望

【J A ・ 行政】

- ・ J A 青年部活動に対する事務局体制の強化と J A 役職員の積極的参加
- ・ 青年部加入のメリットとなる制度の設立
- ・ 各種学習会や研修会の開催、青年部との意見交換会の実施（継続）
- ・ 予算の確保と活動支援、青年部活動に対する積極的な支援
- ・ S A P 会員への J A 青年部への加入促進
- ・ 農業後継者の交流の場の提供
- ・ 青年部イベントの P R 活動を地域住民等に広く発信し、イベントのバックアップ体制を強化してもらいたい

3. 地域農業を守り、育てる対策について

(1) 現状と課題

- ・担い手不足、高齢化に伴う耕作放棄地の増加、農地の荒廃化
- ・農業・就農への不安や多額の設備投資
- ・地域活動の基盤の弱体化
- ・鳥獣害被害の増加と猟友会の高齢化
- ・T P P参加への懸念
- ・個人でできる対策の限界

(2) 目指すべき姿

- ・新規就農者が自立して生き生きと農業に取り組み、活力にあふれる地域社会

(3) 課題解決への取り組み

【県農青協】

- ・新規就農者確保、育成、支援のための意見交換会の実施
- ・T P P参加への断固反対の取り組み

【JA 青年部】

- ・学習会、研修会をとおして教育活動の実施
- ・青年部への積極的な勧誘
- ・地元の学校に対して、職場体験実習の積極的な受入
- ・就農希望者へのホームステイ等の機会の提供
- ・病虫害一斉防除の地域推進や、鳥獣害を防ぐ環境づくり
- ・地域、次世代向けの農業体験等に積極的に取り組む

【盟友個人】

- ・空きハウス、農地情報の提供と収集
- ・情報発信ツールを活用した情報の発信、活用
- ・新技術の積極的導入

(4) 要望

【J A ・行政】

- ・後継者、新規就農者、集落営農者の育成、資金面での支援強化
- ・担い手・後継者向けの教育の拡充と強化
- ・意欲ある農家に対する重点的助成制度の構築
- ・農地の流動化に対する支援強化
- ・実践農場で働きながら勉強できる場の提供
- ・農業を主体としたイベント企画
- ・生態系の調査と、鳥獣害対策の助成措置
- ・耕作放棄地や離農者の情報収集と情報の提供
- ・経営リスクを最小限にする資源の有効活用と補助事業
- ・市民への広報、啓発活動、T P P参加交渉反対
- ・外国人労働者について、就労ビザの規制緩和による、雇用しやすい体制作りの実現。

4. 地域・消費者への理解、教育活動と魅力発信について

(1) 現状と課題

- ・消費者に青年部活動や食の大切さ、農業の魅力が十分に伝わっていない
- ・農業の多面的機能、地域の伝統文化などの学習まで広がっていない

(2) 目指すべき姿

- ・地域住民を巻き込んだ青年部ならではの取り組みを通し、農業の魅力と食に対する意識の向上
- ・青年部が地域になくってはならない存在

(3) 課題解決への取り組み

【県農青協】

- ・活動助成金の確保
- ・食育体験活動やイベントのマッチング
- ・イメージアップ、広報戦略の展開

【JA 青年部】

- ・児童だけでなく、保護者や地域を巻き込んだ活動の展開
- ・学習、体験内容の幅の拡大と質の向上
- ・直売所を利用した農産品と青年部活動のPR
- ・青年部作成のTシャツの着用、販売、看板の掲示
- ・異業種、消費者団体との連携をさらに強め、相互理解を深める

【盟友個人】

- ・指導者としての資質向上

(4) 要望

【JA・行政】

- ・教材、資材の内容見直しと継続的提供
- ・出前授業等での人的支援
- ・現場が柔軟に活用できる助成事業の創設
- ・子供の感性を育てる意味での花育実施検討